

令和3年度 卒業証書授与式 校長式辞

優しく柔らかな陽の光とともに、厳しい冬の寒さをじっと耐え忍んできた多くの生きものたちが、一斉にその命を躍動させる季節がやってきました。

卒業生の皆さんが北部小学校に入学してきてからの6年間、12の縦割りのグループに分かれて取り組んできた「あさか活動」。それぞれのグループの名前にもなっている「桜」「梅」「楠」をはじめとする「あさかの木々や花」も、本日、北部小学校を巣立つ卒業生に、未来へ向かって進む勇気を届けようとしてくれています。

さて、本校を巣立つ51名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。6年間という長い小学校生活を終えて、今、みなさんの心には、たくさんの思い出がよみがえっていることでしょうか。楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったことや悔しかったことなど、すべての経験が、みなさんをここまで大きくたくましく成長させてきたのだと思います。

私は、みなさんと3年間、この北部小学校で学校生活を共にしました。「よく学び、よく遊べ」の言葉通り、みなさんが、いきいきと活躍していた姿が思い出されます。また、最上級生として、委員会活動やクラブ活動をはじめ、多くの場面で全校児童の先頭に立って、立派にその責任を果たしてくれていたことも忘れられません。みなさんが残してくれたことは、北部小学校のよき伝統となって、下級生へと引き継がれていくことでしょうか。

卒業にあたり、私からみなさんへ、大切にしてほしいこととお話しします。それは、「自分で判断し、行動できる人になってほしい」ということです。周りの人に言われてから行動したり、友達の行動に流されたりするのではなく、自分自身でしっかりと考え、正しく判断し、それに従って行動できるようになってほしいと思っています。例えば、家で勉強するときは、どんな方法で、どれくらいの時間をかけて勉強すればよいと思っていますか？ 悩んだり困ったりしている友達を見かけたときは、どのように接してあげようと思いますか？ 判断するのはいつもみなさん自身です。

現代の社会は、情報通信技術の発展を背景として、より高度な情報・知識に基づく多様で付加価値の高い製品・サービスの提供が成長を支える時代に入っています。インターネットの出現は、人類に革命的な進歩をもたらしました。今後、コンピュータの性能が飛躍的に伸び、近い将来には、様々な労働が機械に置き換わるだけでなく、頭脳労働の一部が人工知能に代わったり、人工知能が人間のパートナーになったりする時代が来ると考えられます。2045年には、コンピュータの能力が人間の能力を上回る技術的な転換点が訪れるという予測もあり、私たちの仕事や生活に、現在の常識を覆すような変化をもたらされる可能性があります。

しかしながら、どれほどコンピュータや人工知能が発達しても、感性や思いやり、慈しみの気持ちなどにおいては最後まで人間が優位性を持つと考えられます。人に対して働きかけたり、人の感性に訴えたりすることはもとより、職場やコミュニティの中で、他者と目標を共有し、協働して課題解決に取り組むことは、今後においても必要不可欠です。

これからの時代を生きていくみなさんには、なりたいたいと思う自分に近づくために、どんな判断をすれば良いのか、ぶれることなくしっかりと考えられるようになることが、とても大切になると考えています。また、自分の判断で行動するからには、その結果に責任を持つのもみなさん自身です。良い結果であっても悪い結果であっても、すべては自分が決めたことです。人のせいにせず、その結果をしっかりと受け止め、次の行動に活かしてほ

しいと思います。正しく判断するという事は難しいことです。更に、判断したことを実際に行動に移し、よい結果を得られるようにすることは、もっと難しいと思います。また、慣れ親しんだ環境から離れ、失敗を恐れず、未知の場に飛び出して、発想を拓けるという経験を積み重ねていくことは重要であり、果敢に挑むチャレンジ精神とともに、強い忍耐力を養っていくことも大切です。「自分の意志で行動する」ということから逃げることなく、理想とする自分の姿を追い続けてほしいと思います。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

小学校生活6年間。その中に、語り尽くせぬ多くの喜びと、多くのご心配やご苦勞があったことと思います。お子様に注がれた溢れるほどの愛情がここに実を結び、義務教育の第一段階を終えられたことを、改めてお祝い申し上げます。そして、この6年間の長きにわたり、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただきましたことに、全ての教職員を代表し、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスに関連するニュースが毎日のように流れていますが、卒業生のみなさんの多くが生まれた2009年は、新型インフルエンザが全世界において猛威を振るい、世界保健機関（WHO）がパンデミック宣言を出していた年でもあったのです。これは日本でも同様で、多くの方が感染し、亡くなられた方も少なくありませんでした。この状況は、現在と全く同じであるとは言いませんが、マスクの着用やワクチン接種の効果などについて色々と議論がされていました。また、「予防方法としては、特に手洗いが重要である」と伝えられていたなど、現在の状況にとてもよく似ています。今後についても、新型コロナウイルス感染防止に向けての対策を行わなければならない日々が続いていくと思いますが、12年前に人々に大きな不安をもたらした新型インフルエンザが次第に終息していったように、1日も早く、コロナ禍以前の状況に戻ってほしいと願っています。

私はこれまで、多くの卒業式に参加してきましたが、この時期は、卒業に関する曲がテレビやラジオから流れてきます。「旅立ちの日に」という合唱曲がありますが、その歌詞からです。

懐かしい友の声 ふとよみがえる 意味もないいいさかいに 泣いたあのとき
心かよったうれしさに 抱き合った日よ みんなすぎたけれど 思いで強く抱いて
勇気を翼に込めて 希望の風にのり このひろい大空に 夢をたくして
いま 別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力信じて
このひろい このひろい 大空に

それでは、卒業生の皆さん、名残は尽きませんが、皆さんが健やかに成長し、未来が夢と希望で輝くことをお祈りして、式辞といたします。